

令和2年度 第2回新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会（書面会議）意見・回答一覧

資料番号	ページ	委員からの意見	意見に対する市の考え方
資料1	P.1の右側	新潟市全体の健全度において、ここ数年で措置が着手された橋梁数と点検によって新たに健全度Ⅲに判定された橋梁の数の割合はどの程度なのか気になりました。 健全度Ⅲのものが減る方向にいつているのか、それとも増える方向にいつているのかを確認する必要があると思いましたので。	措置の完了や診断結果の見直しに伴い、健全度Ⅲの橋梁数は1巡目点検完了後（H30年度末）の525橋から、現在は約500橋と減少しています。 引き続き、健全度Ⅲ橋梁の措置を適切に進め、対策進捗状況を公表していきます。
資料1	P.6	ここで説明されている耐震補強の考え方は合理的だと感じました。	早期の耐震補強の完了を目指し、計画に基づく対策を進めていきます。
資料1	P.9	新潟市版補修オリンピックの実施、ぜひ期待しています。トップランナーであれば、業者も試験施工を持ち出しでやってくれるので、他市町村に先んじて取り組むのが良いと思います。	メンテナンスサイクルのうち、「補修」についても新技術の導入検討を進める必要があると考えており、引き続き検討していきたいと考えています。
資料1	全体	SHSM対象橋梁全橋を事後保全から脱却させることは理想ではあるものの、新技術を活用したとしても、主に予算の観点から現実的とは思えない。このため、耐震補強と修繕を含めた包括管理を積極的に検討すべきであるし、フルメニューとされている補修内容についての再検討も必要と思われる。	新技術活用のほか、包括的な民間委託の導入など、新制度の導入に関しても検討しつつ、持続可能な維持管理体制の構築を図っていきます。
資料1	全体	SHSM対象橋梁の費用算出では、減価償却を見込んでいるのでしょうか？仮に、予防保全のステージに移行したとして、その時点では、供用年数が50年を超えたいと思います。このとき、構造安全性の観点からは問題がないものの、交通量の増大など社会的機能やサービスの観点から、ニーズを満足しないという状況は起こりえないでしょうか？こうなると、先行投資が無駄になってしまいます。	SHSM対象橋梁はシナリオ定義上、架替は行わない方針であり、減価償却を見込んでいません。ご指摘のとおり、今後の社会的ニーズを予測したうえ検討を行う必要があり、そのためには橋梁の損傷状況や交通量、また様々な関連データとの連携が必要となると考えています。

資料番号	ページ	委員からの意見	意見に対する市の考え方
資料2	全体	<p>今回のリーフレットは、維持管理の取り組みを知ってもらうための初期段階の広報かと思いますが、他人事感が強いと感じました。状況の逼迫度にも依存し、あまり脅すようなことは良くないと思いますが、地域の協働活動を主体的に求めるのであれば、橋梁が通行止めとなることによって生じる社会的なコストやデメリット等を提示するのが、直接的かと思いました。</p>	<p>リーフレットは市民の皆様には橋梁維持管理の必要性・重要性についてご理解いただくための導入資料として作成しました。改訂や更なる広報資料を作成する際に、より具体的に情報公開を図っていきます。</p>
資料2	P.5のQ7	<p>取り組みのアピールならびに不安の払拭に向けて、円グラフの下にでも、「健全度Ⅳ橋梁の対策は完了済」と記載するのはどうでしょうか？</p>	<p>健全度Ⅳの橋梁はR2年度末現在では撤去しているため、今回は記載していません。</p>